

秩父宮記念スポーツ博物館

PRINCE CHICHIBU MEMORIAL SPORTS MUSEUM TOURING EXHIBITION AT NAGANO

長野巡回展 | 長野オリンピック・パラリンピック 20周年記念

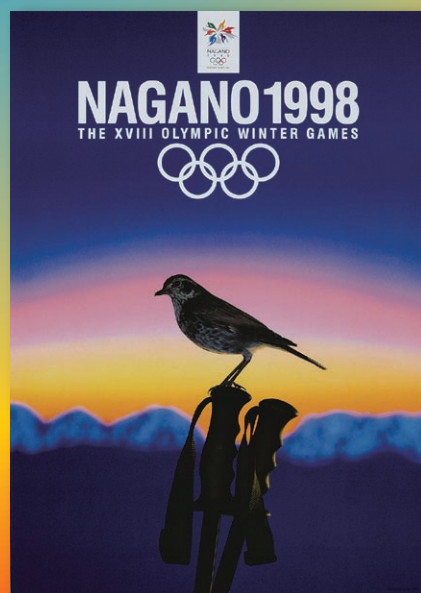
2018.1.27 SAT > 3.11 SUN



オリンピックカップ
(IOCから長野市民に贈られたもの)



金メダル(長野オリンピック)



公式ポスター(長野オリンピック)

【会場】 長野オリンピックミュージアム
【観覧料】 無料 **【休館日】** なし **【開館時間】** 10:00～17:00

主催: 独立行政法人日本スポーツ振興センター
公益財団法人日本オリンピック委員会
特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会
長野オリンピックミュージアム
後援: 公益財団法人日本体育協会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
長野市
長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業実行委員会
協力: 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
ながのスポーツボランティア エムウェーブ友の会
事業運営: スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会

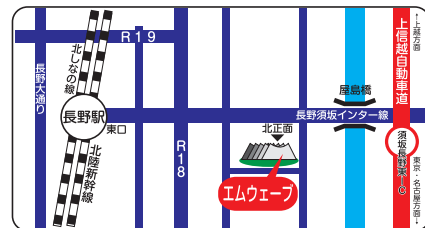
【会場アクセス】

<バスでお越しの方>

- 長電バス
「須坂屋島線・綿内屋島線」(路線番号: 8番)
長野駅東口21番のりば～須坂屋島線・綿内屋島線～(バス乗車所要時間約15分)「エムウェーブ前」下車 徒歩3分

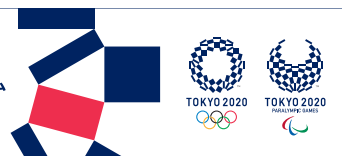
<お車でお越しの方>

- 上信越自動車道「須坂・長野東I.C.」より長野方面に向かって約5分
- 上信越自動車道「長野I.C.」より長野市街方面に向かって約20分



長野オリンピックミュージアム
(長野市オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ内)
〒381-0025
長野県長野市大字北長池 195
Tel.026-222-3300

公認プログラム



第1章

オリンピック初メダル(熊谷一弥・柏尾誠一郎)、オリンピック初金メダル(織田幹雄)。先人達の切り開いた“初”があって、今日の私達があります。オリンピック“初めて”物語。耳を澄ますと、彼らの息吹と情熱が聴こえてきます。★ベルリン大会で銀メダル・銅メダルを分け合った西田修平・大江季雄の「友情のメダル」も特別展示します。



友情のメダル(西田修平・大江季雄)

第11回ベルリン大会 / 1936年
秩父宮記念スポーツ博物館蔵

第2章

競技技術のみならず、デザインもまた大きな変化を遂げてきたオリンピック。2020年東京大会では、どのようなデザインブランディングがなされるのでしょうか。1998年長野大会以前に日本で開催された2大会「1964年東京」「1972年札幌」を、デザイン面から見つめます。「あの時あんなだったなあ!!」そんな懐かしい思い出と共に、あの頃へタイムスリップしてみませんか。



デレゲーションユニフォーム

第18回東京大会 / 1964年
秩父宮記念スポーツ博物館蔵

体験 コーナー

1964年東京オリンピックの表彰台(レプリカ)に上がってみる! 3Dプリントで作ったレプリカメダルを触ってみる! 陸上競技の砲丸・円盤を持ち上げてみる! ポッチャのボールに触ってみる! (水泳・視覚障がいクラスで使用される)ブラックゴーグルを着用してみる! アスリートになった気持ちで色々なものにトライし、選手達のスゴさを実感してみませんか。

※平成29年度巡回展・愛媛会場の表彰台体験コーナー風景です。

本展覧会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック向け、皆様に夢と希望を届けるべく企画しました。日本唯一の総合スポーツ博物館である秩父宮記念スポーツ博物館所蔵のお宝を中心に、1964年の東京オリンピックをはじめとするスポーツシーンを彩った品々や、スポーツを題材にした芸術作品を紹介します。

また、1998年に開催された長野オリンピック・パラリンピックから今年で20年を迎えます。今日では「スピードスケートの聖地」として名高いエムウェーブの、これまでの歩みも同時に紹介します。



アートボール

作: 太田圭(筑波大学芸術系教授・長野県出身)

第3章

“芸術”という窓越しに“スポーツ”を見ると、そこにはどのような光景が広がっているのでしょうか。日本画家・太田圭による日本画、スポーツ墨画家・斎辰雄による墨画、フォトグラファー・北島明による写真、更に「捨てられる運命にあるボールにアートのかで命を与える」をコンセプトにした「リボン・アートボール」。アートの視点からスポーツを感じてみませんか。

第5章

長野オリンピック・パラリンピック後も、様々な熱戦の舞台として輝き続けているエムウェーブ。選手の情熱・観客の声援が多く感動と歴史を紡いできました。エムウェーブの歩んできた道を普段目にする事のない資料を通して紹介します。



オリンピックカップ
(IOCから長野市民に贈られたもの)

長野市蔵

第4章

1964年東京大会から参加している日本のパラリンピアン。多種多様なサポートと共に超人技とも言えるプレーを繰り広げる彼らの姿からは、スポーツをする喜びや生きる強さが伝わってきます。持ち手に点字が施されているリオパラリンピックトーチ、義足、競泳金メダリスト・河合純一さんの資料を通じて、パラリンピックへの扉を開いてみませんか。

★2019年に日本で開催される「ラグビーワールドカップ2019」に向けて、ラグビーの資料も展示します。

リオパラリンピックトーチ

第15回リオ大会 / 2016年
秩父宮記念スポーツ博物館蔵

